



北海道ブロック

脱炭素運用に取り組み より持続的な経営を

●医療法人ミライエ緑町診療所
(北海道千歳市)

医療法人ミライエ緑町診療所
(稲熊義仁院長)では、2023年8月にカーボンオフセットLPガスを導入し、より環境に配慮した診療所運営を目指している。

カーボンオフセットとは、個人・組織の活動で二酸化炭素排出量の削減努力を行う際に、どうしても削減できない排出量についても削減できない排出量について、他の場所での削減・吸収量等

を購入することによって相殺するという考え方だ。近年、取り入れる企業が増えている。

稲熊院長は、「SDGsを意識し、地域住民にも良い影響を与えられるような診療所経営をしたいと考えています」と話す。

環境配慮に取り組むうえで気になるコストは、導入前と比べてガスの単価自体は多少上昇したものの、同院では太陽光パネルによる再生エネルギーを利用していることもあり、院内の総エネルギーコストで見れば上昇まで至っていないという。

また、ほかにも開院当初から、蓄電池の完備やプラグインハイブリッド自動車(PHEV)なども導入している。これらのLPガス



カーボンオフセットLPガス導入の証明書

や自家発電設備に関しては、環境への配慮と同時に、災害対策としての効果も見込んでおり、有事への対応準備にぬかりない。

こうした災害対策への並々ならぬ意識は、稲熊院長が3度の災害を経験していたことで培われた。たとえば、18年9月の北海道胆振東部大地震発生時は、大規模停電で診療機能が停止するケースを目の当たりにし、電力の重要性を痛感。このことから、電力供給が途絶えても、約2・5日間は稼働できる自家発電設備を自院に整備したというわけだ。

一方で、災害時の診療機能維持に備えた取り組みと同時に、平時の診療機能の効率化にも力を入れている。

予約・問診はICT機器を活用し、診察中のカルテ入力には医師事務作業補助者に任せるなど、医師が診察業務にのみ集中できる仕組みを構



緑町診療所の外観。災害時などにも診療機能を維持するための機能を充実

築。稲熊院長が不在の際に、代診の医師でも滞りなく診療を継続できる体制を整えている。「私がいなくても診療所が問題なく稼働できる仕組みをつくらなくては、地域の医療インフラを担えません」と、稲熊院長。今後は訪問診療の計画もあり、より一層地域へと貢献していく心構えだ。